

平成29年度宇部市総合教育会議（第1回） 議事録

1 日 時 平成29年8月2日（水）17：30～18：55

2 場 所 宇部市役所4階 第2・3・4委員会室

3 出席委員の氏名

久保田 后子 市長

野口 政 吾 教育長

水田 和 江 委員

三原 節 子 委員

田村 賢 二郎 委員

山野 あい子 委員

4 事務局出席職員

大下教育部長、佐貫理事、唐沢教育次長、松田教育次長、床本総務課長、村上施設課長、市川施設課長補佐、網本学校教育課長、森田学校教育課長同格、古富特別支援教育推進室長、佐々木学校安心支援室長、吉村社会教育課長、有田人権教育課長、神代学校給食課長、池田学びの森くすのき・地域文化交流課長、佐野図書館長、藤原副館長、福嶋副館長補佐、小林総務課長補佐、東野総務係長

5 趣 旨

（事務局）唐沢教育次長

ただ今から、平成29年度宇部市総合教育会議（第1回）を開催いたします。

本日の議題は、協議事項が2件、報告事項が1件となっております。

協議事項の1件目は、「市長マニフェストについて」です。本日は、マニフェストの中から、特に教育分野に関係するものを抜粋し、参考資料として、お配りしておりますので、参照下さい。

「生きる力を育む教育のまち」を目指して、様々な施策の推進を掲げていますが、本日はこの中から、「小・中学校の冷房設備設置」を議題としております。

協議事項の2件目は、経済的・社会的にも孤立しやすく、多角的なサポートが必要とされる「10代の妊娠・出産について」です。

報告事項については、市長がマニフェストで推進する「文化・スポーツを楽しめるまちづくり」のソフト対策の関連施策として、「部活動指導員について」報告いたします。

なお、本日は3名の方が傍聴されています。

本日の会議の終了時刻は、19時を予定しています。

それでは、ここからの進行は、本会議の主宰者であります久保田市長にお願いします。

（委員）久保田市長

それでは、今年度第1回の総合教育会議となりますのでよろしく申し上げます。本日の資料として、マニフェストの中から教育関係を整理したものを配布しています。このなかから、小中学校の冷房設備設置を取り上げます。皆さんの御意見や具体的な御提案も大歓迎ですので、どうぞよろしく申し上げます。

— 小・中学校の冷房設備設置 —

(委員) 久保田市長

それでは、早速、議事に入りたいと思います。

まず、「小・中学校の冷房設備設置」ですが、近年、温暖化、気候変動に対する関心が高まる中で、本市においても徐々に平均気温が上がってきているという傾向があります。その中で良好な学習環境を確保するという意味で、県内他市においても冷房設備設置について、整備や検討が始まっています。そういった観点を踏まえ、また、非常に遅れていました本市の小中学校耐震化が、概ね目途がついてきた状況もありますので、ここでより良い学習環境を確保していきたいということで、マニフェストに掲げたところです。それでは、現状と設置に当たっての効果や課題について、事務局から説明をお願いします。

(事務局) 村上施設課長

それでは、小中学校の冷房設備の設置状況について御説明します。まず、現状についてですが、平成29年4月1日現在の普通教室の設置状況は、全国で49.6%、山口県で17.6%、宇部市で3.7%となっています。また、理科教室等の特別教室では、全国で34.6%、山口県で18.7%、宇部市で10.5%となっています。普通教室と特別教室の合計では、全国で41.7%、山口県で18.2%、宇部市で7.2%となっています。全国的には、東京都がトップで84.5%、その他、京都府が68.8%、沖縄県が74.3%で、大都市や気候が暑い地域の設置率が、高い傾向にあります。本市では、児童生徒の体調管理上必要とされる保健室や特別支援教育の一部、主に夏季休業中も使用されている職員室や事務室、防音や騒音対策など特別な事情がある音楽室やコンピューター室等、空調設備の必要性が高い部屋に設置しています。さらに、平成28年度からは、夏季休業中に地域に開放し、児童生徒の読書活動や地域の交流に活用できるよう、年次的に図書室に空調設備を整備しています。平成28年度に8校、今年度も8校を予定しており、平成31年度までに完了する予定です。次に、県内他市の取り組み状況ですが、普通教室に空調設備を設置しているのは岩国市のみで、平成29年度に普通教室への整備が完了します。特別教室の整備については、未定とのこと。県内で普通教室への設置を検討しているのは、山口市、周南市、萩市、美祢市の4市で、残りの7市については、未定という状況です。次に、普通教室への空調設備の必要性についてですが、全国的な平均気温の上昇、PM2.5などの空気環境の悪化、熱中症対策等の児童生徒の健康面への配慮が挙げられます。効果については、児童生徒の健康管理の充実、良好で快適な教育環境の確保、授業に集中できる学習環境の確保等があります。課題については、空調設備は大きな電力を必要とするため、受変電設備や幹線等の既存設備の改修について詳細な調査が必要となること、それらとあわせて全体の整備に、多額の費用が必要となること、設置後も電気代等のランニングコストが必要となることがあります。

(委員) 久保田市長

少し補足しますと、普通教室への設置ということですが、地域や、建物の構造から必要性が低いところもあるかと思しますので、一律に全部設置するというのではなく、個別に検討する必要がありますが、本市としては、耐震化の遅れも解消しつつあり、これからは、質の向上を検討していくべきと考えています。学校施設は、避難場所としても非常に重要で、

体育館だけではなく、より一層支援が必要な人には、教室を活用するなどきめ細かく対応できるようにしたいと思いますし、コミュニティ・スクールとして、学校が休みのときや、放課後からの活用、地域の方の文化活動等に活用の幅が広がるという地域からの意見もありました。財源の問題もあると思いますが、全国的に見ても様々な手法があり、どうすれば実現できるかという観点から、努力していきたいと思います。

ただ今の説明について、何か、御質問、御意見はありませんか。

(委員) 水田委員

冷房設備が設置されるということで、体温調節の難しい子どもにとって非常にありがたいことで、夢のような話だと思います。検討中の他市でどういうことが課題になっているのか教えていただけますか。

(事務局) 村上施設課長

検討中の市では、先ほど申しましたとおり、整備に多額の費用がかかりますので、それらの財源をどう工面するのか、あるいは整備手法をどうしていくのか、どのくらいの期間で設置していくのか、また既設の設備の調査等もあわせて検討しているところです。

(委員) 田村委員

冷房設備の設置は、大変素晴らしいので、ぜひ進めていただきたいと思います。また、子どもたちの体温調節機能の面から、夏はしっかり汗をかくという暑熱馴化も大切ですので、設置してからの使用の仕方についても、しっかり考えていく必要があると思います。日当たり等各教室によって違いがあると思いますので、各部屋での温度調整ができるようにして、使用する温度の基準等を明確に定める必要があると思います。夏は暑いものであるということ体を体へに覚えさせることも大事なことでと思います。

(委員) 三原委員

田村委員と同意見ですが、冷房設備を設置するという事で、多額の初期費用とランニングコストが発生して、財源的に少し不安があります。また、冷房を使用することで、電気使用量も増え、温暖化や省エネ教育に影響があるかもしれないと感じました。冷房設備の設置を効果的に行うために、扇風機の設置状況を教えてください。

(事務局) 村上施設課長

手元に資料がありませんので、正確な数は申し上げられませんが、学校からの要望で、30度を超えるような教室があれば、扇風機を設置している教室はあります。例えば、鉄骨造の3階の教室では、室温が上昇しやすいため、いくつか設置した記憶があります。

(委員) 三原委員

教室によって条件が様々であると思いますので、扇風機の活用も検討していただけたらと思います。また、昨年度から進めている図書室へのエアコンの設置ですが、図書室は夏季休業中も児童生徒、地域の方々が利用しますので、ぜひ早急に進めてほしいと思います。中学校では、音楽室や美術室なども夏季休業中に部活動などで使用することもあると思いますので、そういうところは優先的に設置しても良いと思います。普通教室全てに設置することは大変素晴らしいことと思いますが、先ほどより出された色々な課題もありますので、対策など充分考えていかなければならないと思います。

(委員) 山野委員

学校現場での経験からいいますと、自分の気持ちをコントロールできない子どもたちは、大変暑さが苦手で、衝動的な行動をとることや、学習に集中できない傾向があります。いつもではないですが、不快指数が非常に高いときや、運動会の練習の後などに多かったように思います。全ての学校にパソコン教室が設置され、そこには、冷房設備が設置されていたのですが、この部屋では穏やかに授業を受けているのですが、教室を出るとトラブルが続出すということもありました。9月の運動会の練習の後では、冷房の効いた保健室で休んで教室に戻ると、落ち着いて学習できる子どももいました。6月に公開授業に参加した際、他県で研修会に参加した校長から、その学校には、全ての普通教室に冷房設備が設置されていたが、特に発達障害傾向の子どもたちには暑さは辛いので、宇部市でも設置して欲しいという話がありました。それが実現するという事は、とても素晴らしいと思います。教室に冷房設備が設置されると、子どもたちが外に遊びに行かなくなるという話も聞いたことがありますので、使用方法には、十分配慮する必要があると思います。

(委員) 久保田市長

皆さんの御意見は、そのとおりだと思います。全て一律に設置していくということではなく、必要に応じて設置することや、使用方法に基準を定めるということは当然だと思います。

教育現場では、これまで緑のカーテン等暑さ対策に様々な努力を重ねてこられたと思います。学校現場の意見を参考にして、設定場所や環境教育について検討したいと思います。

また、支援を必要とする子どもたちの増加、学校の多面的な活用という観点、気温だけでなく、気候変動による湿度などの影響等を考慮すると、これまでの方法で対応できるものではないと思っています。潤沢な財源があるわけではありませんが、教育施設に十分な資金を投資すべきであるという意見は非常に多くありますので、適切な配置やルール等について、教育委員、現場の教員、地域の方等との協議の中で進めたいと思っています。

(委員) 野口教育長

先日、13市教育長会議に参加した際、山口県は、冷房設備設置後進県であると話題になりました。この冷房設備設置はぜひ進めたいと考えていたところ、このたびの市長マニフェストに取り上げていただいたことは、大変ありがたく思っています。当然、子どもの健康や環境面は大事ですが、それ以外にも多くの可能性が広がると考えています。例えば、サマースクールや、地域開放に大変有効ですし、キッズウィーク等も検討できると思います。冷房設備が設置されることで、宇部市が魅力的な教育のまちになる可能性を秘めていますので、しっかり進めていきたいと考えています。財源等、様々な課題はありますが、設置については、できるだけ短期間で進めたいと考えています。

(委員) 久保田市長

近年の猛暑等、気候環境が大きく変動している中、総合的に考えていかなければならないと思います。ご指摘いただいたように、適切な基準を定め、機械技術と共生して、質の高い教育につなげられるよう努力していきたいと思っています。これから、計画を作成していく中でご指導いただけたらと思います。

— 10代の妊娠・出産について —

(委員) 久保田市長

全国的にも話題となっているテーマではありますが、教育の問題にもつながると思いますので本日の協議事項とさせていただきます。

まず、事務局から説明をお願いします。

(事務局) 床本健康推進課長

協議事項の2「10代の妊娠・出産について」説明します。

まず、本市の状況ですが、平成23年度から平成28年度まででは、多い年で44人、少ない年で27人となっています。妊娠届のあったもののうち、2.0%から3.4%の割合で推移しています。また、中学生では、平成26年度から平成28年度の3か年で7人が妊娠し、出産しています。山口県では、全出生数に対する10代妊娠の割合は1.6%から2.0%、同様に全国では、1.2%から1.3%となっています。国の統計では、10代の妊娠の6割が中絶しているといわれていますが、望まれない妊娠を防ぐということもありますし、出産された場合に母子が孤立することの無い様、子育て支援だけでなく、学校での支援、不登校等への支援を医療、福祉、行政機関だけでなく、民間団体等においても、個人情報も適切に取り扱いながら、連携して支援していく必要があると思います。現状では、中学生の妊婦については、「子育て世代包括支援センター」で妊娠届が提出された場合、あるいは産婦人科医等から連絡を受けた時点から、産婦人科医、健康推進課母子保健係、地域・保健福祉支援チームの保健師、家庭児童相談室、学校安心支援室、学校、児童相談所が連携をとりながら、担当保健師が訪問等により相談、助言等の支援を行っています。中学生以外の10代の妊娠については、妊娠届時に「婚姻の有無」、「経済状態」、「援助者の有無」など生活環境を確認したうえで、その後の定期健診の受診状況等も確認しながら、必要に応じて相談、助言等の支援を行っています。また、学生については、就学の継続について関係先と調整を行っていますが、中学生の場合、不登校児が多く、学校の教員やスクールカウンセラーとの面談が行えず、生活指導が困難なケースが多い状況です。

(事務局) 網本学校教育課長

10代での妊娠が全て悪いと考えているわけではありませんが、望まない妊娠を防ぐという視点からの教育は必要であると考えています。学校としては、未然防止のための教育を行っていくことが重要であり、男女の違いや、妊娠のメカニズムだけではなく、命の教育、キャリア教育、生き方の教育を全ての教育活動を通じて行っていく必要があると思います。

(事務局) 佐々木学校安心支援室長

中学生が妊娠した場合の対応についてですが、学校、医療機関、福祉部局と連携して、要保護児童対策地域協議会を開催し、学校生活について協議を行います。内容としては、出産のための入院までの学校生活、入院中の学習、退院後の学校生活について、本人、保護者の意向を確認しながら、関係者で共通理解をしながら支援していきます。出産後については、学習環境の整備や学習の機会の保障を、本人、保護者と十分な協議及び確認を行い支援します。心理的支援としては、担任の教員や、養護教諭、スクールカウンセラー等が支援します。また、公的支援制度の活用を図るため、スクールソーシャルカウンセラーが支援します。そ

の他、卒業後の進学支援や、必要に応じて、若者サポートステーションでの就労支援などを行います。

(委員) 久保田市長

委員の皆様のご意見をお伺いしたいと思います。日頃見えにくいテーマではありますが、本市では、教育と福祉をつなぐ学校安心支援室を8年前から設置していますので、早い段階で、支援の仕組みにつながればと思います。望まれない状況であっても、適切な支援がなされないといけないと専門家の先生方からもご指導いただいているところです。

(委員) 山野委員

20年ほど前に他市の学校で性教育担当者をしていたのですが、県内の担当者の会議がありまして、その際に、学習内容の地域差が大変大きいと感じました。その頃の宇部市の中学校の教員の取り組みはとても先進的で、現在の性教育とは違って、望まない妊娠は避けなければいけないということで、副教材もあって、小学校でも性交を教えていた時期がありました。その後、性教育に対して批判が強まったことがあり、望まない妊娠を防ぐということについて、学校現場でやりにくくなったという状況があると思います。さきほど、学校で未然防止のための教育という話がありましたが、学校現場では授業の中で行うのが難しくなっていると思います。学校からの依頼で、保健師や、産婦人科医の方が講義をされるのが一番学校現場に直結し、子どもたちが理解でき、未然防止につながるのではないかと思いますので、全ての学校で実施していただけたらと思います。

(委員) 田村委員

私も、未然防止というところが重要だと思います。中学生の出産となると、母子ともにリスクが大きいと思いますので、避けなければならないと思います。日本は、世界と比較して、性教育が遅れているという話も聞きますし、実施する時期も遅いと思います。現在では、インターネット等で情報が入ってきて、悪い情報ほど子どもも興味を持つので、誤った知識を得てしまう前に、早めに対応する必要があると思います。また、男子生徒に対しても、しっかりと教育をする必要があると思います。相手を思いやる男性に育てて欲しいと思います。

(委員) 三原委員

私も、未然防止のための教育が大変重要だと思います。中学生での妊娠出産は、零になって欲しいと思います。外部の専門家による講演会を実施されているところが、少ないと感じました。全中学校で実施される事が望ましいと思います。それと、衝動的な気持ちを抑えることや、相手の気持ちを思いやることの教育は、小学校から道徳の授業の中でも養われていく部分があると思います。性教育だけでなく、全ての教育の場面で、命を大切にすることを身につけ、自分の気持ちを律する力が養われていくことを期待しています。

(委員) 水田委員

性教育に関して、大きく分けて2つの部分があると思います。1つは、できるだけ早く命の教育や、赤ちゃんの誕生について、小学校のときから教育の中に取り入れていくということの大切さがあります。それと、なぜそのような問題が起きるのかということ、子どもたちの周辺の環境から考えていかなければならないと考えています。望まない妊娠等の問題を抱えている子どもたちというのは、生活や学校の中で居場所が無い子どもが多いと思います。

そういう子どもたちと家庭に対する支援が密に行われなければならないと思います。保健師も妊婦健診等で助言をされていると思いますが、妊娠した時点から、子どもたちにどのように寄り添っていくのか、学校を巻き込んでいかなければならないのではないかという気がします。雑誌等の情報や友人に相談するなど小さなグループで対処しようとしている現状があると思います。学校安心支援室や、保健センター等教育と福祉が密接に連携して支援に取り組んでいただけたらと思います。母親になった女性の将来を支援していくためにも、教育、福祉、医療が密接に連携していただけたらと思います。

(委員) 野口教育長

中学生で妊娠し、出産した場合の多くは、父親と同居していません。また、ほとんどの母親は、高校に進学していません。こうした状況を考えると、肉体的、精神的、経済的にも苦しむのは女性であり、男性の責任ということについて、田村委員のお話にもありましたが、命や心、家族、父親になるということについての教育が必要だと感じています。中学生で出産しても、学びたいという思いを持っている子も多いと思いますので、義務教育だけでなく、高校とも連携して支援していきたいと考えています。

(委員) 久保田市長

どうもありがとうございました。皆様共通した思いとして、10代で厳しい状況になるという面から教育が必要であり、性教育であるということで、専門家による教育を早い段階から行うことが大切であることや、命の大切さ、相手を思いやり自分を律するという教育の根源についてご指摘をいただきました。現実には中学生で妊娠出産をする子どもがいるということに対して、教育につないでいくことや、健やかな育ちを支援していく必要があるというご意見がありました。学校での講演も行っている産婦人科医の金子法子先生は、望まぬ妊娠であっても、生まれてくる命は、輝かしい命として大切にしていこうということを教育していかなければならないとおっしゃっていました。また、不登校で学校との連絡が途絶えている場合に、支援が届かないというご意見もありました。これらは、学校安心支援室を設置した目的に合致していますし、学校教育課も全ての教育活動で取り組むとことでしたので、教育と福祉、医療の連携を確たるものにしていきたいと考えています。

これまでの協議の中で、その他に御意見はございますか。

(委員) 三原委員

冷房設備の設置のところで、扇風機の活用をお願いしましたが、空調設備の実施は実現に時間がかかると思います。扇風機であれば、すぐに設置できると思いますので、希望する学校があれば設置して欲しいという思いで発言しました。空調設備が設置されることは、大変喜ばしいことだと思いますが、空調設備を設置することで、他の教育予算が削られないようにお願いします。

(委員) 野口教育長

扇風機については、希望する学校に設置をすすめており、今後も教育環境の改善に努めていきたいと考えています。

(委員) 久保田市長

財源の問題として、本市では、教育予算に十分配分が出来ているとは思っていませんが、

財政健全化を進める中で、これまでは、学校施設耐震化が大変遅れている状況にありましたが、ようやく耐震補強工事が終了し、建替え工事も目途がつかしました。これからは、質を高めるための投資を適切に行っていかなければならないと思います。そのために、予算を削る事が出来るようなものはなく、むしろ、ICT、英語教育、発達障害等の支援を必要とする子どもたちに対する補助教員など教育に関する予算はさらに充実させていかなければなりません。

何かを削減して、空調設備を整備するという事は考えていませんので、よろしくお願ひします。

— 部活動指導員について —

(委員) 久保田市長

それでは、報告事項ということで、「部活動指導員について」説明をお願いします。

(事務局) 網本学校教育課長

部活動指導員制度について、2カ月が経過しましたので近況を報告します。これまでのところ、生徒、保護者、学校から問題があるといったことは報告されていません。私も学校で直接子どもたちに意見を聞いてみたところ、この制度があることを、大変喜んでいました。反響も大きく、県内のみならず全国から問い合わせがあります。詳細な説明は、森田学校教育課長同格が行います。

(事務局) 森田学校教育課長同格

6月1日から専門性の高い指導員派遣することで、生徒の競技力、技術力の向上を図ることとともに、教員が授業等の教育指導に専念する環境を、確保することを目的に実施しています。指導員の登録者は20名で、学校の希望とすりあわせ、10名を派遣しています。2カ月が経過して、派遣した学校からは好評で、特に課題等は出ていません。今後、客観的な検討材料とするため、部活動指導員、配置校の教員、保護者、生徒を対象としたアンケートを実施しており、成果と課題について把握したいと考えています。

(委員) 久保田市長

ご質問はございますか。

(市長) 久保田市長

よろしいでしょうか。

新しい取り組みを始めるときは、様々なことを検討しなければならないと思いますので、この部活動指導員制度についても、指導員が学校現場に入り、大会等の引率も行えるということで、色々な研修プログラムを作成し、実施しているところです。現在まで大きな課題はないとの事ですが、気を緩めることなく、検証を行い、改善に努めたいと考えていますので、よろしくお願ひします。

以上で、平成29年度宇部市総合教育会議（第1回）を終わります。